

新発田市 平成 30 年度 第 6 回定例記者会見

1 日 時 平成 30 年 8 月 31 日（金）午後 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

○障害者雇用率の算定誤りについて

○「10 代の居場所カフェ」の利用者 100 人突破

○関係人口創出事業「にいがた know^の村^うプログラム^{そん}」

○新発田城おさかなパラダイス

○まちなかランチマップの完成

○RUN伴 2018 in しばた

○不動産フェア

○イクネスしばた「おやこキッチン②」

○さかなまつり 2018「塩引き鮭作り教室」

○マナビィフェスティバル 2018

○新発田豊年秋まつり

○新発田音楽文化協会定期演奏会

○新発田市美術展覧会（市展）出品作品受付開始

○新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏婚活支援事業「五感で体感、恋の予感」

○新発田市における渇水等への対策

○香港・シンガポールへのトップセールス

○スポーツ・カルチャーツーリズムの取組

○城下町新発田まつり

○歴史図書館会議室を学習スペースとして特別開放

○松岡地区 奉納花相撲

○原ゆたか先生 お絵かき会&講演会

○こわいおはなし会

○札の辻キッズランドで水遊びしよう！

○小・中学生による新発田城清掃活動（クリーンプロジェクト）

○グリーンカーテンプロジェクト 2018 in しばた「グリーンカーテン料理レシピコンテスト」

○新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏婚活支援事業「恋してガレット♥あなたに酔いたいサングリア」

○新発田市所蔵美術作品展「今生の華^{こんじょう}・高橋美則^{はな}の萬葉^{みのり}の世界^{まんよう}」

○「Gentle Forest Jazz Band Live^{ジェントル フォレスト ジャズ バンド ライブ}」

- 「高校音楽祭」
- 介護予防川柳応募作品展示
- 「市民将棋大会」
- 「花市」
- 菅谷地区「食の循環によるまちづくり」がスタート

あいさつ

- 少し前までは、渇水、水不足だと言っていたのに、今日は大雨警報が出ています。報告になりますが、水不足については、田んぼで 5 ヘクタール程度の枯死状態が見られるということでもあります。作付け面積が 8000 ヘクタールですので、そのうちの 5 ヘクタールですから、あの猛暑、水不足からすれば、最低限の被害に抑えられたのではないかと考えています。
- 水不足については、新之助など品種は 9 月に入っても水は必要ですけど、ほぼ落ち付いて状況です。しからば、それで終わりかといえそうではなく、猛暑による胴割れ米も心配ですし、一時、葉を巻いた状態の田んぼが見られて、これが降雨によって少し戻ったのですが、果たしてそれが実りの秋に間に合うかどうかかわからないので、まだまだ予断を許せない状況ではあります。
- 上水道も内の倉ダムも元にもどりつつあり、自然流水だけで十分対応できる状態になりましたので、まずはひと安心だということでもあります。ただ、台風 21 号が新潟県を直撃しそうな状態で、大きな台風ということで、新たな心配ごとはありますが、今のところ以上のような状況であります。
- 新発田まつりもおかげさまで、事故もなく成功裏に終了させていただきました。とりわけ市民の皆さんから評判が良かったのは、花火です。
- 今回は打ち上げのタイミングを狭めて行ったということと、市民の皆さんに協賛をいただいて、終盤にスターマインを打ち上げてフィナーレを飾るような形で行ったことが市民の皆さんの好評を得たようであります。
- ただし、打ち上げ時間が 40 分でありましたので、少し時間が短い気がします。せめて 1 時間は市民の皆さんに楽しんでもいただきたいと思いますので、もっと協賛金を集めて本数を増やすような状況になるんであろうと考えています。また、台輪もけが人もなく、スムーズな運行をしていただき、感謝

をしております。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、障害者雇用率の算定誤りについて

- 障害者の雇用率について、中央省庁等において不適切な算定が行われているとの報道があり、当市でも独自に実施した調査の結果について説明いたします。
- 報道では、中央省庁等におきまして、障害者手帳の交付を受けていない職員を、指定外の診断書や独自の判断などで障害者とみなして雇用率を算定していたことが問題とされていますが、当市においては、採用時、あるいは採用後、手帳の交付を受けた時に手帳を確認しております。念のため、改めて対象職員から手帳の写しを提出してもらい、間違いなく手帳の交付を受けていることを、今回確認しております。
- また、今後、国では地方自治体に対しても再調査を行う予定のようですが、それに先んじて、過去の報告数値が国のガイドラインや通知に沿ったものかどうかを調査したところ、算定の対象となる職員の解釈に誤りがあったことが判明しました。
- 具体的には、再任用職員と臨時・パート職員の算入に誤りがあったものであり、これを踏まえて障害者雇用率を再計算したところ、平成 30 年度から平成 25 年度までは、雇用率は減るものの、法定雇用率または必要な雇用者数を満たしていることを確認しました。
- ガイドラインや通知に対する理解不足と拡大解釈により算定を誤ったものであり、意図的な水増しということではありませんが、不適切な算定をしていたことは事実であり、訂正後の雇用率を新潟労働局に報告の上、障害者雇用の促進を図るべき立場として、今後は適正に雇用率を算定するよう担当課に指示をしたところであります。
- 今後も障害をもつ方の採用を継続して行い、障害者雇用率を向上させるように努めてまいります。なお、詳細につきましては、担当課長も出席してお

りますので、後ほどお尋ねをいただきたいと思います。

次に、「10代の居場所カフェ」の利用者 100 人突破について

- 「10代の居場所カフェ」は、「まちの保健室」ということで開設しましたが、7月22日（日）のオープンから約1ヶ月が経過しました。この間、小・中学生、高校生といった、多くの子どもたち・若者たちが、居場所カフェを利用してくれております。
- 利用者の数は、8月27日現在で187人であり、カフェの開設日には毎回、利用しているリピーターもいると聞いています。
- 利用者の様子は、友人同士でおしゃべりをしたり、学習したりするほか、ゲームをして楽しく過ごす方もいるようで、さまざまであります。
- 開設の目的としていた、「子どもや若者たちが気軽に訪れ、思い思いに過ごすことのできるスペースの提供」が実現できているのだと思います。
- また、元中学教諭の相談員や、利用者と比較的年齢の近い大学生のボランティアもあり、見守り、話し相手になるなどの対応もしています。これにより、学校や家庭では言えない悩みや困りごとの相談ができる機会につなげたいというものであります。
- 実際に、相談を受けた案件があったと聞いています。引き続き、相談員等による見守りを続けながら、状況に応じて関係機関等と連携し、相談者のケアに努めていきます。
- 夏休みが終わり、明日からは新学期です。カフェの利用者も増えるのではないかと思います。「少し息抜きをしたい、困りごとを相談したいという時には、居場所カフェに行ってみよう」と思ってもらえるよう、10代の子ども・若者たちの居場所づくりに努めてまいります。

次に、関係人口創出事業「にいがた know^{のう} 村^{そん}プログラム」について

- この度、新潟県が行う関係人口創出事業のモデル事業として、当市が連携自治体として関わり、人口減少や地域活性化といった課題に対し、「関係人口の創出」という新たな視点での取組に参画することになりました。

○このモデル事業は、県が総務省より受託したものであり、県から当市と魚沼市の２市に対し、お声掛けがあったものであります。

○移住した「定住人口」や、観光に来た「交流人口」でもなく、その地域内で勤務・居住経験がある方、あるいは、ふるさと納税をしたことがある方など、地域と何らかのつながりもつ「関係人口」を創出し、担い手が不足する地域に人材を送り込むことで、地域づくりに参画してもらうことが事業の目的です。

○具体的には、地方で活動したい、地域と関わりを持ちたいという希望はあるものの、移住までは考えていないといった、都市部の若者などに働き掛けを行い、そうした方々の「第二のふるさとづくり」につなげ、関係人口の創出につなげていこうというものであります。

○９月２日（日）に都内で「キックオフミーティング」を開催し、地域との関わり方を首都圏の方々にお伝えをしていきます。ここに、当市の板山集落の方も参加し、新発田市のＰＲを行います。

○１０月６日（土）・７日（日）には、「know^{のう}村^{そん}の旅 新発田プログラム」と題し、実際に首都圏在住の方々に当市を訪れていただき、まずは地域を知ってもらい、地域の良さを体験してもらうモニターツアーを行います。

○ツアーは地域の方にも主体的に関わってもらい、市内の米倉・板山集落を中心に農村体験のほか、月岡温泉に宿泊いただくなど、新発田の魅力を体感し、新発田に興味をもってもらう働き掛けを行います。

○併せて、市の職員も出向き、直接、市の魅力を伝えるとともに、当市のふるさと納税や移住・交流等に関する情報も発信する予定にしています。

次に、「とりもどそう！新発田城おさかなパラダイス 生物多様性保全作戦 in 新発田城」について

○日頃から当市のまちづくりに、さまざまな面でご協力いただいている新発田青年会議所が、６０周年を記念してイベントを行います。

- イベントの内容は、地域の生物多様性の保全を図るため、新発田城のお堀に生息する外来種生物の駆除を行うというものです。
- これまでも、お堀にいる外来種生物を釣り上げ、駆除する活動はありましたが、今回のイベントでは、お堀の水を抜く「かいぼり」を行い、参加者全員で在来生物と外来生物を仕分けするという、大胆かつ珍しい取組です。
- 「かいぼり」を行うのは、新発田城の三階櫓、辰巳櫓の復元をするのに伴い、石垣の状況を調査した平成12年以來のことです。
- 9月1日(土)から約2週間をかけて堀の水を全て抜き取るとのことですが、当日は、600人もの参加人数を見込んでいるとのことであり、ふだんの新発田城周辺で見られる光景とは、かなり違ったものを見ることができるのではないのでしょうか。
- 市のシンボルである新発田城で駆除活動を体験し、地域の生態系と環境保全の必要性について、楽しみながら学ぶことのできるイベントです。
- ぜひ、おおぜいの方に参加していただきたいと思います。当日の取材はもちろんのこと、9月3日(月)を期限とした参加者募集についても、ご協力をいただき、盛大なイベントになることを願っております。

次に、「まちなかランチマップ」について

- 当市の中心市街地にある飲食店に足を向けてもらうため、「まちなかランチマップ」を作成しました。
- このマップの制作・発行には、ヨリネスしばたの建設を契機に、まちなかの若手経営者が中心となって立ち上げた「まちなかワイワイプロジェクト実行委員会」の皆さんが関わっています。
- 同実行委員会は、これまでも新発田市制70周年記念事業として開催した「しばた中心市街地ランニングフェスタ」のほか、札の辻広場を活用した様々なまちなかにぎわい事業を実施しており、この度は、中心市街地の飲食店に目を向け、事業の1つとして「まちなかランチマップ」を作成したものであります。
- 「たのしい、おいしい新発田ランチ。」をキャッチフレーズに、ヨリネスしばた、イクネスしばたの周辺の飲食店40店舗以上を紹介しています。両施

設を訪れた皆さんに、少し足を延ばしてもらい、まちなかを散策してもらうために作成したものです。

○コンパクトな紙面の中には、各店自慢のおすすめメニューの写真が掲載されているほか、新発田ブランドの認証商品も紹介されており、新発田のまちなかを巡りながら、食べ歩きをしたり、買い物を楽しんだりするのに便利なパンフットです。

○パンフレットは、ヨリネスしばた、イクネスしばた、まちなかの各施設などに設置しています。ぜひ、多くの皆さんに、このパンフレットを片手に、新発田のまちなか散歩を楽しんでいただきたいと思います。

このほかの情報としては、認知症の方やその家族、支援者などがリレーをしながらタスキをつなぐプロジェクト「RUN^{ランとも}伴2018 in しばた」、空き家の対策や不動産の売買などの悩みが相談できる「不動産フェア」があります。

また、家族・友人などと、参加いただきたいイベントして、「イクネスしばた おやこキッチン」「さかなまつり 2018 塩引き鮭作り教室」「マナビィフェスティバル 2018」があります。

さらには、毎年恒例の「新発田豊年秋祭り」「新発田音楽文化協会演奏会」があるほか、「新発田市美術展覧会・市展」の出品作品の受付開始についての話題があります。

最後に、新発田市・胎内市・聖籠町が連携して行う婚活支援事業、「五感で体感、恋の予感」があります。

ぜひ、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。